

自らの命を守る力を育み、地域貢献力の高い生徒の育成を目指す防災教育の実現 ～迫る危機を確実に乗り越えるための地域の連携・協働の取組を通して～

豊浦町立豊浦中学校 学級数5 (校長 毛利 憲二)

I 実践テーマの趣旨

本校の東側 15km ほど先には有珠山があり、およそ 20～30 年周期で定期的に噴火を繰り返し、現在も活発に噴煙を上げている。前回の噴火では豊浦町は洞爺湖町からの避難住民の多くを受け入れた経験を持つが、月日の経過とともに噴火への危機感や避難所運営等の記憶も薄れているのが現状である。そこで、噴火周期を迎え、迫る有珠山の噴火災害から身を守り（自助）、避難住民を受け入れ、地域に貢献する力（共助）の育成に行政機関と連携した取組を進めている。

II 実践の概要

1 自助・有珠山を知る「専門家による火山講話会」

噴火災害から身を守るためには、火山そのものの歴史や特徴、過去の被害などについて学習を深めることが第一と考え、洞爺湖有珠火山マイスターを講師に招き、当時の映像や持参して頂いた火山性の噴出物に生徒が直接触れながら噴出物の特徴や噴火災害の歴史について学び、火山災害の危険性について認識を高める機会を設けた。

2 自助・有珠山を知る「有珠山登山」

生徒の五感を通じた防災学習として、有珠山登山を実施した。現地で火山マイスターから有珠山に関する解説を聞き、雄大な自然を満喫し



つつ、噴火災害の危険性について学習を深めた。日常の授業における既習事項や事前の火山講話会の知識が結び付き、深い学びへとつながった。

3 共助・防災キャンプの取組

防災キャンプは豊浦町教育委員会が主催し、自然災害の被害に対して、生徒が豊浦町としての役割（避難者の受け入れ等）を理解し、近い将来、地域を支える一人となる自覚を促すことを目的としている。避難所運営及び避難所生活等の体験を通し、地域の課題を共有し地域社会を支える担い手として、さらには災害時におけるリーダーとしての活躍を願い実施している。1泊2日の日程で豊浦町教育委員会、豊浦町役場防災係の他、豊浦町社会福祉協議会も参加した多角的な取組であり、

概要は次のとおりである。

(1) 学習プログラム『逃げ地図』をつくろう

各グループが災害設定別に避難所までの避難経路（「逃げ地図」）を作成した。作成の際には役場職員や社会福祉協議会も加わり、生徒が考えた経路が有効か翌日の避難訓練で検証した。

(2) 避難所を設営しよう

段ボールベッドを作成し寝心地を体験した。作成するためには仲間との協働が必要であることを実感した。

(3) 非常食を体験しよう

避難所運営の資料とするため、備蓄している非常食を夕食として実食した。

(4) 体験プログラム「避難所運営ゲーム北海道版『Doはぐ』」

災害時における行動を考えさせる避難所運営ゲーム「Doはぐ」を実施した。想定外の課題に対し、知恵を出し合って協働し、難局を乗り越えるため「乳幼児のいる家庭の避難所内の個室の確保」や「ペットの取扱」等、実際の避難所の運営で予想される課題について対応しながら、未来の防災リーダーの育成を図った。

(5) 作成した「逃げ地図」を使い、避難訓練をしよう

避難訓練では、介護者が恐怖心を抱く坂道や車椅子が通行できない砂利道の存在などの様々な「気付き」を情報としてタブ



レットに入力し、【「逃げ地図」を基に避難開始】写真を撮影した。新たな情報は豊浦町のハザードマップと重ね合わせ、町全体の避難経路図の改善を図った。

III 実践の成果（○）と課題（●）

- 学校と地域、行政が互いに連携し、様々な事案への冷静な対応や避難所運営のノウハウの習得に向けた協働的な学びを通して、生徒のコミュニケーション能力を高め、地域連携の強化を図ることができた。
- 防災管理の徹底及び自校における防災教育の見直しを絶えず図り、自助・共助の心が浸透した災害に強い学校づくりを推進する必要がある。